

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870101379
法人名	(株)クロスサービス
事業所名	グループホームだんだん
所在地	愛媛県松山市朝生田町7丁目8-4
自己評価作成日	平成27年10月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年10月23日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・どのようなことでも必ずご利用者と相談し、ご利用者が生活の主体であることを大切にしている。ご利用者とスタッフがともに悩んだり、困っているときには助け合ったり、つらいときには分かちあったり、楽しいことは一緒に喜べる関係を作れるように取り組んでいる。ご利用者がいろんなことが体験できるように地域の方の協力を得ながら新しいことへチャレンジできるように支援している。  
 ・スタッフが交代で研修に出る機会も設け、現場での気付きはもちろんだが、外部での気付きも大切に、視野を広げたり、思いを押し量れるような機会を作っている。  
 ・二階には小規模多機能型居宅介護事業所があり、一緒にイベントをしたり二階で過ごしたり、ご利用者の生活が広がるように協働している。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

共用スペースについては、移転前のソファや食卓、畳スペース等の配置を替えないように配慮した。昼食後は、利用者2名でソファに腰をかけ、くつろいでいる様子が見られた。利用者ご自分の意思でしたいことが出来るように、編み物、貼り絵、折り紙等の用具や材料を準備しており、訪問調査時には、職員が「好きなもの取っていいですよ」と声をかけていた。自由に飲み物が飲めるようにキッチン前にポットとコーヒー等を置き、訪問調査時には利用者ご自分で薬を飲むための白湯を注いでいた。花壇に花の種を撒いたり、茄子や春菊等の野菜も育てている。  
 お彼岸等の節目には、お墓参りができるよう支援している事例がある。又、時々、ご自宅に戻って郵便物を確認したり、衣替えできるよう支援している事例もある。入居前に、併設小規模多機能事業所を利用していた方は、毎朝事業所で行う腰痛体操の時間には、仲良しの方を迎えに行かれる。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容を P R!!!

- サービス向上への3ステップ -  
“ 愛媛県地域密着型サービス評価 ”

事業所名 グループホーム だんだん

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名

越智 哲哉

評価完了日

平成27年 10月 1日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ・H.26.4月にミーティングにてスタッフ全員で決めた。自分たちが目指すホームをテーマにして、みんなでどんな場所にしていくのか話しながら、今のご利用者が求めているか確認しながら作成した。出来た上がった理念をフロアに掲示し、新人職員が入職した際には、オリエンテーションで説明を行っている。 (外部評価) 平成26年4月に事業所を移転した際、職員で話し合い「相手のことを気にかけてたりかけられたり、一人ひとりが心動く暮らしを選ぶ おもいでを話せるひとがいる あったかだんだん」と理念をつくっている。日々の中で利用者が自分のことを語る場面や、利用者同士で話す場面を作り、理念の実践に取り組んでいる。毎年、自己評価を全職員で取り組む際、理念が実践できたか確認し、見直しをしている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ・保育園や小学校行事、地域の運動会などに積極的に参加している。また、公園の花壇づくりも任されている。保育園が年間行事を作成する時に、一緒に参加させて頂き、園外保育を朝生田公園でお年寄りと合同で行うという案が出て実施している。子供もお年寄りもとても喜ばれる姿があった。 (外部評価) 地域の方の紹介で近隣の保育園との交流が始まっており、交流行事を利用者も楽しみにしている。ハロウィン、事業所に園児が来ることになっており、調査訪問時には職員と利用者で子ども達に配るプレゼントを作っていた。又、小学校のバザーに出かける際には、事業所で集めているベルマークを届ける予定である。9月に駐車場で芋炊きや花火大会を催した際、翌日に、向かいのマンションの方から「楽しそうで良かったですね」と声をかけてもらったようで、事業所では、今後、「駐車場で行事を行う際には地域の方も誘いたい」と話していた。今後はさらに、地域の高齢者だけでなく、困っている方の相談窓口となる事業所を目指したいと話していた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 専門学校の実習を受け入れ、認知症の勉強や身体介護、地域の中で暮らすことの意味を学べるように指導を行っている。また、ボランティアも受け入れ、認知症ケアについて説明をしたり、ご利用者と関わる時間を作っている。運営推進会議では、活動報告の中に対応を伝え、地域の方へ理解してもらえるように伝えている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 二か月に一回、小規模多機能ホームだんだんと合同で行っていたが、h27.10月からそれぞれで行う事となる。管理者はもちろんだが、スタッフも必ず一名は参加し、ミーティングでほかのスタッフにも伝えるようにしている。また、ご利用者の参加も増えており、一緒に地域の方とホームのあり方について話を聞いている。かわら版に会議内容をのせ、地域の世帯にポスティングしている。	今後さらに、地域の方やご家族が関心を持って参加できるような会議の持ち方について工夫を重ねてほしい。グループホーム単独の会議を行うようになったことを機に、事業所の持ち味を活かした会議に工夫してほしい。
			(外部評価) 「だんだんかわら版」には、会議内容や次回の開催日時を載せて配布しており、それをみて参加してくれた地域の方もあった。ご家族の参加は、1名程度にとどまっている。権利擁護について学びたいという職員からの希望で司法書士を講師に招き、みなで勉強する機会を持ったこともある。今後は、地域の身近な情報を知っている方に参加を呼びかけて、地域の情報交換の場としても会議を活用していきたいと話していた。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加してもらい、現状を知ってもらったり、松山市の現状を説明してもらった事もある。今年度は、サービス評価のモデル事業として新しい評価基準の作成を行政と連携して行っている。	
			(外部評価) 行政も関わっているサービス評価モデル事業では、事業所も協力事業所となり、自己・外部評価モデルに協力している。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 年に2回勉強会を開催し、参加したスタッフがミーティングでスタッフ全員に報告をしている。玄関の施錠は防犯のため、21時～7時に行っているが、それ以外の時間帯は解放しておりご利用者がいつでも自分の意志で出入りが出来るような環境を作っている。	
			(外部評価) 玄関は開閉時にチャイムが鳴り、段差なく出入りができる。駐車場の自動販売機にジュースを買いに出る方もあり、職員は居間の窓からそっと見守る等して、安全で自由に過ごせるよう支援している。居室の掃き出し窓から庭に出て過ごす方もある。利用者に対して、「待ってください」等の言葉かけが見られた時には、朝・夕の申し送り時に「職員がどういう気持ちで声をかけたか」「利用者にとってどうだったか」「今後そういう場面ではどうするか」みなで考えるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 年に2回勉強会を開催し、参加したスタッフがミーティングでスタッフ全員に報告をしている。外部の研修にも参加して報告会を行っている。 また、入浴時や更衣時には、アザの確認を行い、傷シートを作成し、なぜできたのか、チームで確認するようにしている。声掛けや対応についても、気になったときにはスタッフ間で注意するようにしている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	(自己評価) 成年後見人を実際に利用しているご利用者がいる。また、松山市社協の福祉サービス利用援助事業を利用しているご利用者もいる。 今年の運営推進会議で、司法書士の先生に講義をお願いして地域の方と共に学びを深めている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 重要事項説明書と契約書で説明を行っている。ホームのことを少しでもイメージできるように、ホームの事例を交えながら説明を行い、ご利用者・ご家族が理解できるように努めている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 年に一回は家族アンケートを作成し、回答をいただいている。また、回答はホームに掲示し、いつでも見れるようにしている。ご利用者へは運営推進会議に参加いただき、意見をいただけるように声をかけている。ご家族からは「居室の掃除について」意見頂き、改善を行っている。 (外部評価) 2ヶ月に1回、利用者の日常の様子や行事の写真を掲載した「だんだんだより」をご家族に送付している。頻繁に来訪するご家族から、職員の利用者へのかかわりについて、「最近はどうまいことしてないな」と感想が聞こえてくることもある。	ご家族と一緒に勉強したり、活動するような機会を工夫して、さらに利用者の暮らしをご家族とともに支えていけるような支援に取り組んでほしい。



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>月に一回のミーティングでは、スタッフが参加し、取り組みや運営についての意見を聞くようにしている。 また、年に4回は面談を設け、働き方やかわり方について、個人の目標や希望について話し合える機会を設けている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>法人内異動があり、経験年数の浅い職員が多くなったため、先輩職員が新人職員をマンツーマンで指導する体制を作っている。3～6ヶ月ごとに目標を立て、毎月自己評価を行い話し合っており、相互の気付きにもつながっている。職員から、「1時間休憩が取りたい」と希望があり、現在、職員は交代でケアの場を離れて休憩を取っている。</p>	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>年に一回は申告書を代表者に全員が提出し、実績や状況を報告できるようにしている。 勤務状況や本人の希望、組織全体への貢献度などを含めた人事考課制度になっている。</p>	
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>月に1回、管理者はスタッフにOJTシートを作成しており、スタッフが目標についてどのように取り組んでいるか確認している。また、法人内外の研修については、年間で計画して、全員が参加できるように努めている。また、研修はミーティングで報告し、全員で確認できる環境を作っている。</p>	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>石井地区の事業所には年に一回は運営推進会議への参加を声かけし、一緒に地域のことを考える機会を作っている。また、協会の研修には年間予定をたててスタッフが参加するようにしている。法人内では、リーダーや管理者、現任、新人などスタッフの状態に合わせて集まる機会をつくり意見交換している。</p>	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>利用前には管理者とスタッフとで、ご本人に会いに行ったり、見学に来てもらったりと関係ができるように努めている。今現在関わっている方にも意見をもらい、サービスを提供するようにしている。また、初めて利用するときには、ご本人が好きなものを準備し、他のご利用者にも紹介している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族にも見学に来ていただき、ホームの様子や取り組みなどを説明する機会を作っている。また、契約時にはホームでおこったことも説明し、どう思うか聞き取るようにしている。ご本人の前では言えないこともあるので、別の場所で聞き取ることもある。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 電話で相談されることが多いが、利用の申し込みをするのか、小規模等在宅で続けて生活できるかご家族、ご本人の解決したいこと、どのように暮らしていきたいかを確認しながら話している。また、ホームに入ってから必要なサービスが何か検討している。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) スタッフは、常にご利用者に相談しながら一日の過ごし方を考えるようにしている。 料理や畑などの事でご利用者から教えて頂くことも多く、会話しながら何かを行うことが多い。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 行事に参加してもらったり、お誕生日を一緒にお祝いしたりしている。また、スタッフが二か月に一回はお手紙を書いて近況の報告をしている。 あるご利用者とは、自宅で泊まる予定をご家族と考えたり、逆にご家族がホームに泊まるケースもある。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 墓参りや美容院など、利用開始時に情報をもらえる方は継続して家に帰ることも含めて支援している。 ご家族の結婚式に参加されたり自宅が近所の方は時々散歩がてら帰ってみることもある。ホームで長く生活している方はスタッフやほかのご利用者とも関係が続くように支援している。 (外部評価) お彼岸等の節目には、お墓参りができるよう支援している事例がある。又、時々、ご自宅に戻って郵便物を確認したり、衣替えできるよう支援している事例もある。入居前に、併設小規模多機能事業所を利用していた方は、毎朝事業所で行う腰痛体操の時間には、仲良しの方を迎えに行かれる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ご利用者同士で困って話をしたり、助け合いながら家事をされる姿がある。新しいご利用者が来たときにはご利用者の間に入りながら、紹介をしている。また、日々の余暇(カルタや花札などのゲーム)に参加できる方はしてもらい、誕生会の際には全員で参加するようする場を提案・提供している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了してもご家族がホームを訪ねて下さる事がある。近所で偶然お会いするケースもあり、その際にはご利用者がだんだんを利用されていた時のお話をお互いに懐かしく話す場面がある。	
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 何かをする時は、お一人お一人に声を掛けるようにしている。ご利用者の希望にスタッフがすぐに対応できない時には、いつでもやって実行していくかを一緒に考えて進めている。 (外部評価) 入居時には、ご家族に「私の姿と気持ちシート」を記入してもらい、日々の生活から知り得た情報はアセスメントシートに記入して、6ヶ月ごとに更新している。まず、「利用者に聴く。利用者からの発信を待つ」ことを心がけている。職員は、毎日、利用者が「どう過ごしたいか」を聴き、押し付けることなく、ご自分のしたいことを選んだり決めたりできるような支援に取り組んでいる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人にかかわる人から経過を聞き、今後どのような暮らし方がしたいのか把握するように努めている。また、スタッフ間では、シートを利用して、情報を共有するように努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の記録の中と毎日、朝・夕の申し送りの中で把握に努めている。またご利用者にも過ごし方は決めてもらえるように、提案したり、意向を引き出したりしている。家族から意見があまりもらえていない。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) ミーティング時にご利用者のカンファレンスを行い、状況の確認と今後の目標を決めるようにしている。また、日々の記録から経過記録を作成し、プランの立案シートにて整理できるように努めている。毎日の申し送りの中で目標を確認し、毎日目標が達成できたか記録に残すようにしている。</p> <p>(外部評価) 日々のケア記録に日々の様子、利用者の言葉等を記入し、1ヶ月を「経過記録」にまとめてモニタリングを行い、3ヶ月ごとに「経過記録」をもとにして「立案シート」を作成して、計画の見直しを行っている。毎月のカンファレンスでは、職員で利用者の現状を情報共有している。介護計画は、利用者にも見てもらい支援内容を「お約束」と伝えて、「一緒に頑張ろうね」と話し合っている。時に、利用者から「今日はお約束が守られてないね」と言われる事もあるようだ。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 朝・夕の申し送り時に情報を共有するように努めている。個人別記録にはスタッフの気づきを記入する欄を作っている。また、申し送り帳には継続するケアを記入し、実践が続くように気を付けている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 地域の事業所から研修を受け入れたり、訪問のパン屋さんを受け入れている。ご家族との外出時には、準備を手伝ったり、通院や受診をご利用者、ご家族に合わせて支援している。ご利用者によっては、自宅に荷物を一緒にとりに帰ったり、自宅で過ごせるようにご家族と一緒に考えたりしている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) ご利用者個人で今までの地域資源を続けて利用しながら生活できるようにしている。(自宅に帰る、お墓参り、敬老会の参加、理髪店の利用など)また、ホームに来てからも資源が広がっていくように、事業所として町内会や保育園、小学校、スーパーなどへも行けるように支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 入居時にかかりつけ医について相談している。なるべく今の主治医が継続できるように相談している。ご本人、ご家族の状況が変われば提案しながら協力医に変える方もおられる。年に1度は口腔チェック月間を設け、歯科往診につながるケースもある。</p> <p>(外部評価) 利用者それぞれの希望や状態に合わせてご家族等とも相談し、入居前からの主治医に継続して診てもらっている方や、訪問診療を受ける方もある。夜間等に体調を崩した方があれば、協力医に連絡して指示を仰いでいるが、判断に迷うような場合には連携している訪問看護師に相談したり、来てもらっている。病状の変化等があれば、医師から直接ご家族に電話で説明がある。又、ご家族が気になることがあれば、直接医師に相談している。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 二週間に一回は訪問看護師が訪問して健康チェックを行っている。またファクスなどを利用し、タイムリーに変更したことやエピソードを伝え、助言もらうときもある。いつでも相談でき、必要時にはご利用者の状態を見に来てくれる。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入院時にはご家族が病院に来るまで、ご本人に付き添うようにしており、病院に情報を伝えている。また、入院中もご本人の状態を見に行き、今後についてご家族とも相談するようにしている。ご家族もどのような選択肢があるのかわからないことも多いので、ホームでのケースを伝え、一緒にご本人について考えるようにしている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 契約時に重度化や終末期についての方針を説明し、意向を聞くようにしている。イメージがわからないといわれる方には一緒に考えていくようにしている。また、発熱時や病状の説明時には悪化した時のことも想定しながらご家族に説明し、意向を引き出すように努めている。</p> <p>(外部評価) 移転前、居間で看取りを支援したことがあり、利用者はその様子を見て「自分はこのようにして欲しい」「自分は病院に行きたい」又、利用者ご本人に「ここで良かったなあ」と言葉をかけるような場面も見られたようだ。ご家族も来訪時にその様子を見て、「こういう中で見てもらった方がいいな」とイメージされたようだ。移転後は看取り支援の事例はなく、環境も変わったことも踏まえて、利用者やご家族に改めて終末期のあり方について意向を聞きたいと話していた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 二年に一回はスタッフ全員が救命講習を受けれるように努めている。また、受講したスタッフはミーティングで報告し、スタッフ間で共有できるようにしている。また、急変が予想できるときには早めに対応を考えたり、ヒヤリをあげるようにして事故防止に努めている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に6回実施している。想定もスタッフの人数が少ない状況に決めて行っている。また、運営推進会議で話題にしており、トイレの問題や備蓄のことなどを地域の方と考えるようにしている。地域の方からは、垂直避難と、災害時にもホームで過ごせるようなほうがいいのではと助言いただいた。また、年間計画に具体的な計画を乗せたらとも助言いただいたので、火災や地震、水害をそれぞれ年間で計画し、訓練している。 (外部評価) 消防署から、「水害の際には情報収集が大事」とアドバイスがあり、先日の激しい雨の日には気象レーダーを小まめにチェックした。事業所となりの畑は道路より低く、「畝の上まで水が溜まったら避難(2階に上がる)」を基準にして職員間で共有している。防災に詳しい地域の方がおり、運営推進会議時に町の防災について、近くの河川の堤防の状況等を説明してもらった。又、いざという時には緊急通報装置を通じて直接連絡がつくようになっている。備蓄については「ローリングストック法」を採用しており、毎年9月に非常食を食べて、補充している。近隣にある法人事業所には、ガスを電気に変える装置があり、災害時には使用できる。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) グローアップ会というサービスの質を考える会議を三ヶ月に一回法人内で開いており、その時にサービス評価の項目を元にした日々の支援の振り返りを行うようにしている。その際に、ご利用者のお名前呼び方が議論となり親しみを込めてお呼びする際にも礼儀をわきまえた言葉掛けについて運営推進会議でも一緒に地域の方と考えている。 (外部評価) 利用者への言葉遣いについては、ミーティングで毎回議題に挙がり、「慣れあいにならないように、雑にならないように」と話し合っている。運営推進会議で、利用者の呼び名について話し合った時には、地域の方から「本人が『はい』と返事する呼び名で呼んだらいい」とアドバイスをいただいた。訪問調査時、職員は利用者にお風呂の着替えを一緒に取りに行きましょう」と声をかけて、ご自分でお風呂の準備を行えるよう支援していた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 食事のメニューや過ごし方、行事などに参加するかまで、なるべくご利用者に相談し、決定してもらえるように努めている。言葉では十分に意思表示できない方へは反応をみたり、表情や体の緊張で判断するようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ご利用者にどのように暮らすのかを日々聞き取りながらご本人のペースを探りながら支援している。買い物の希望にはその時に実現できるように配慮している。また、入浴も希望を聞き支援している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) なるべくご自分で選べるように支援している。毎朝どの服を着るのか確認している。ほつれや汚れがひどいときにはご家族にも相談して新しいものを用意してもらっている。また、散髪はご本人、ご家族と相談してホームに訪問理美容にきてもらい行っている。ご利用者同士で髪を鏡の前で整容されている場面もある。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 毎日のメニュー決めから下ごしらえ、盛り付け、片づけまでご利用者ができるように努めている。ご利用者のその日の気分や状態もあるので相談しながら行っている。また、ご自分で好きなものを作ったり、準備して召し上がる方もおられる。みんなで作る機会も大切に、ホットプレートでごはんを作ったり、ご利用者が振舞える機会を作ったりしている。 ゆっくり食事をするために、座席を変えたり玄関を出たところの広場で食べる事もある。 (外部評価) 注文した食材と冷蔵庫の中の食材を見て、利用者と一緒にメニューを考えている。時には下ごしらえをしながらメニューが決まることもある。職員と一緒に食材の買い物に行き、ご自分で好きなものを作って食べたり、お好きな漬物を買って来て食事時に添えるような方もあり、訪問調査時には冷蔵庫からご自分でタッパーを出していた。食後には、利用者が下膳、食器洗い・拭きを手際よく行っている様子がみられた。誕生日には利用者の好きなメニューでお祝いしている。ちらし寿司、唐揚げを希望される方が多いようだ。月2~3回は、玄関前で食事をすることもあり、気分を変えて食事ができるよう工夫している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎月1日に体重測定を行い、栄養が偏っていないか確認している。食事や水分の摂取について、記録からチームで把握することに努めている。ご利用者の状態により食べる量や内容について、申し送りを行い、必要な時には主治医に連絡するケースもある。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 個人のペースを大切にしながらも出来るだけ食後に口腔ケアが行えるようにしている。ご本人の拒否によっては時間をずらして対応している。 食後、ご利用者に合わせて支援している。一年に一回は口腔内をチェックしており、往診や受診につなげている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>排せつチェック表を活用し、漏れている状態が続けば使用しているものを見直すようにしている。 自分で出来ている方の時々での失敗について、敢えてスタッフは支援を行わないようにしている。(ご自分でさりげなく処理されているので、気が付かないようにする)</p> <p>(外部評価)</p> <p>時間をみて声かけして支援しているケースもあるが、早めに声をかけるのではなく、ご本人がソワソワしたり困っているような様子に気づき支援している。訪問調査時、使用済みの紙パンツをトイレに持って行き処理している方があり、職員は目でそっと確認したり、後で処理の状態を見て確認したりしていた。</p>	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>個人に合わせてヨーグルトや牛乳、寒天などを利用している方もいる。排せつチェック表で、排便の状態を確認し、出にくい状態なら水分やおいも、腹部の温めなどをおこなっている。また、どうしても出ないときは手順を決めて下剤を使用している。</p>	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ご本人と相談して入るタイミングや時間を決めている。入浴の目的も個々により異なるので、目的に合わせた入り方を提案している。また、排せつなどで汚れたときはすぐに清潔にできるように努めている。また、足浴や清拭なども支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>個々に希望を聞きながら週2~3回は入浴できるよう支援している。利用者個々に体格や入浴動作に違いがあるため、移転時には、浴室にはあえて手すりを付けず、バスボードやシャワーチェアを使用して利用者に合わせた介助ができるようにした。浴槽で温まることを好む方やシャワーの方がよい方等、利用者の希望に合わせて支援している。浴室の壁には、その時期の花のポスターを貼ったり、栗を置く等して話題にしたり、リラックスした気持ちで入浴できるよう工夫をしている。入浴を嫌がる方には、関係が出来ている職員が声をかけて誘い、何度も断るような場合は、「明日は入りましょね、等と約束をすることで翌日の入浴につながることもある。</p>	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>ご本人の状況に合わせて、居室やソファーなど好きなところで休めるようにしている。夜にゆっくりとテレビを見ながら休まれる方もおられる。日中には家事やしたいことを促し、活動できるように努めている。</p>	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の保管はホームでしており、個別に保管している。その保管している袋に処方箋と一緒に入れており、いつでも確認できるようにしている。また、変更時には印をつけて、スタッフがわかるようにしている。服薬支援についても自分でできるように工夫している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 調理や縫物など、その方が得意としている事を出来るようにスタッフが提案するよう申し送っている。 ご利用者がホームで飼っている猫と遊んだり、花が好きなのが花壇の手入れをされたり、早朝に新聞が届いた際には二階の小規模に届ける事を日課にされている方もおられる。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご本人の意向に合わせて、散歩や買い物、日向ぼっこなど支援している。また、外出に車いすが必要な方はご家族に依頼し、車いすを貸し出しご本人と散歩に行ってもらう事もある。また、毎朝外の掃除をご利用者と行っており、天候と一緒に確認したり意向を聞く場面になっている。 (外部評価) 玄関前は駐車場で、一角に花壇があり飼い犬もいて、利用者はちょっと外に出て過ごすような機会が以前より増えている。「ちょっと出かけた」という方は、併設小規模多機能事業所の送迎の際、同乗したり、帰りにお寺参り等して気分転換することもある。近くのファミリーレストランに全員で外食に行くこともあり、利用者は「ステーキが食べたい」と言って楽しみにしている。利用者の中には「個人で出かけるより皆で出かけた」と希望する方もある。「喫茶店に行きたい」等、お元気な時のように出かけたという方もある。	ご家族からは外出支援についての希望は多くあるが、管理者は、「ご家族が利用者の外出について重視すること」を探っていきたいと考えている。ご家族と一緒に外出先や支援の工夫等について話し合うような機会も持ち、ともに利用者の暮らしを支えていけるような取り組みをすすめてほしい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご本人、ご家族と相談して、管理を分けて対応している。本人が持っている方に関しては、買い物時でも自分で支払をお願いしている。ホームが管理している方でもなるべく支払時には自分でできるようにしている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご利用者の中には自分で携帯電話を使ってご家族とやり取りする方もおられる。また、年賀状や暑中見舞いなどご利用者の希望に合わせて支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 不要なテレビは消してラジオや音楽にしたり、フロアに畳を置いて床に座る空間を作ったりしている。また、風呂場には季節の花を飾ったり細めに湿度や室温を確認している。	
			(外部評価) 共用スペースについては、移転前のソファや食卓、畳スペース等の配置を替えないように配慮した。昼食後は、利用者2名でソファに腰をかけ、くつろいでいる様子が見られた。利用者のご自分の意思でしたいことが出来るように、編み物、貼り絵、折り紙等の用具や材料を準備しており、訪問調査時には、職員が「好きなもの取っていいですよ」と声をかけていた。自由に飲み物が飲めるようにキッチン前にポットとコーヒー等を置き、訪問調査時には利用者のご自分で薬を飲むための白湯を注いでいた。花壇に花の種を撒いたり、茄子や春菊等の野菜も育てている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ご利用者の動きや行動を見ながら、過ごしたい場所で過ごせるように椅子を配置したり、一人になれる空間を作るようにしている。席をその都度に変える方もいれば、同じ席を好む方もおられる。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ホームを移転したので、居室のしつらえが変わったが、ご本人とご家族で配置していただいた。なるべく自宅から持ってきたものを居室に置くようにしている。 今年は、自宅にタンスやお仏壇を取りに帰られた方もおられた。	
			(外部評価) 全室掃き出し窓で、自由に出入りできるようになっており、窓の外にベンチを置いて外気浴をしたり、ご自分で洗濯ものを干す方もある。鉢植えの植物に水やりする方もある。ご自分の気に入ったベッドを持ち込んでいる方や息子さんの幼い頃の写真を飾っているような方もあった。居室は、駐車場に面しているため、ご家族の中には直接居室に入る方もある。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 調理の場面では、自らが材料や調味料を台所に取りに行かれる場面がある。服薬に関しても自分にとって大切な物であるという事を意識してもらいながら、自らがラックに取りに行き服薬できるような環境を作っている。(それが難しい方のみスタッフが支援するようにしている)	